

若者自立塾調査報告書

発行 2007年4月25日
NPO法人 日本スローワーク協会
代表理事 宮地 剛

連絡先 〒569 - 0814 高槻市富田町1丁目13-25 プラザ富田205号室
TEL&FAX: 072 - 696 - 9667
ホームページ URL <http://slowwork.org/> メールアドレス info@slowwork.org

はじめに

2006年2月に実施した『若者自立塾調査』の集計結果がまとまったので報告する。アンケート発送数は100団体であるが別項にあるように厚生労働省や社会経済生産性本部からの『よこやり』が入り、自立塾受託団体20団体からの回答が得られなかったが実質53.75%の解答率を得た。

引きこもりやNEETの増加は明らかに産業界が企業利益を守るために国内の若者の新規就労を抑制したためであるにもかかわらず、政府や経済団体はそのことを自己批判せずに、まるで若者たちに『施し』をするように就労支援や「若者自立塾」などの事業を始めた。案の定『3ヶ月で就労は無理』などと引きこもり支援団体からは総スカンを食らった形の『若者自立塾』だが、社会経済生産性本部は『この塾はひきこもりを対象と考えていない』とのことで引きこもりを救済する意思はないようである。NEETという言葉が流布させて、引きこもりの親たちに誤解をさせたというのが真相のようだ。

(理事・西嶋彰)

当調査について

・アンケート実施期間

2006年12月～2007年1月

・アンケート発送数 100団体

(内訳)

若者自立塾受託団体 23団体

関東・東海・関西地方のひきこもり支援団体 77団体

・回答数 43団体

(内訳)

若者自立塾受託団体 3団体

関東・東海・関西地方のひきこもり支援団体 40団体

・回答率

全体 43%

若者自立塾受託団体 13%

関東・東海・関西地方のひきこもり支援団体 52%

アンケート結果まとめ

1. 組織についての質問 (S=43)

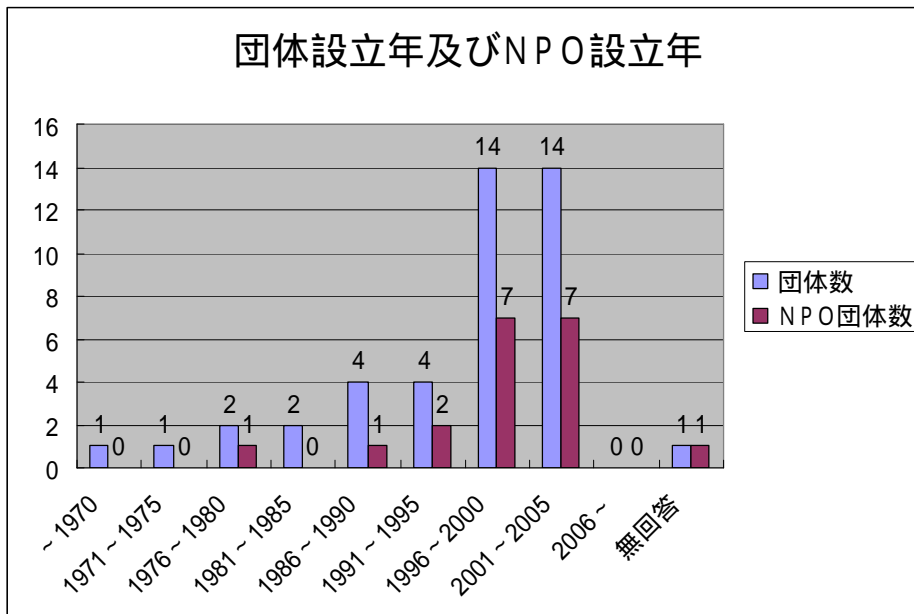
1-1. 組織形態

組織形態	NPO 法人	営利団体	任意団体	その他
団体数	19	4	16	4

1-2. 組織の沿革

団体設立年

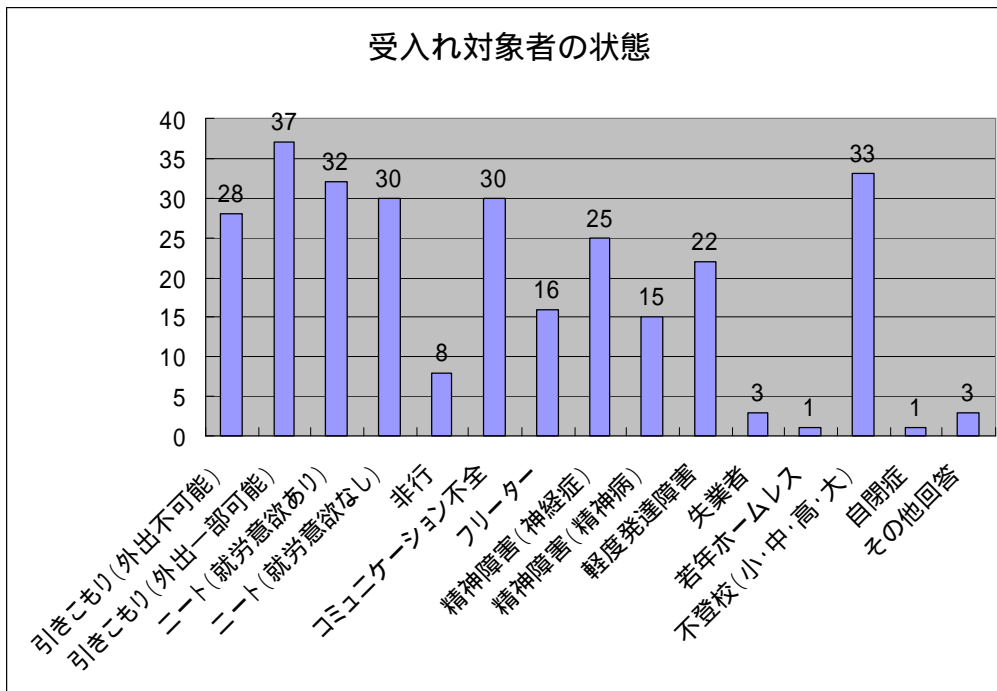
設立年	~ 1970	1971 ~ 1975	1976 ~ 1980	1981 ~ 1985	1986 ~ 1990	1991 ~ 1995	1996 ~ 2000	2001 ~ 2005	2006 ~	無回答
団体数	1	1	2	2	4	4	14	14	0	1
NPO 団体数	0	0	1	0	1	2	7	7	0	1



1-3. スタッフの内訳

	常勤男	常勤女	非常勤男	非常勤女	有償ボランティア男	有償ボランティア女	無償ボランティア男	無償ボランティア女
合計	73	40	133	111	37	50	48	70
平均	1.78	0.98	3.24	2.71	0.90	1.22	1.20	1.75
中央値	1	1	1	1	0	0	0	0

1 - 4 . 受入れ対象者の状態 (複数回答可)



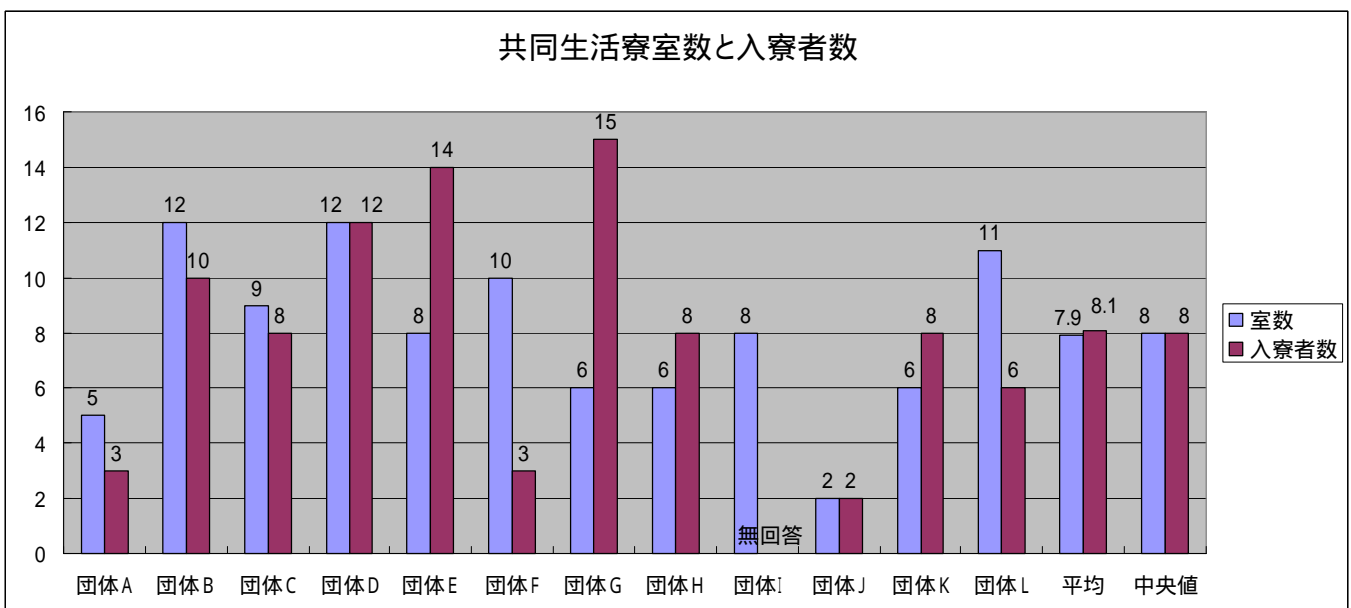
1 - 5 . 活動(支援)内容(複数回答可)

訪問活動	27
共同生活	12
通所型支援	30
カウンセリング	29

2 . 共同生活タイプの支援を行う団体に対する質問 (S=12)

2 - 1 . 共同生活寮室数

2 - 3 . 入寮者の数



2 - 2 . 共同生活寮のタイプ (複数回答可)

ワンルームマンション型	1
一戸建て	8
その他	4

2 - 4 . 費用

10万円未満	4
10～20万円	5
20万円以上	1
その他	1

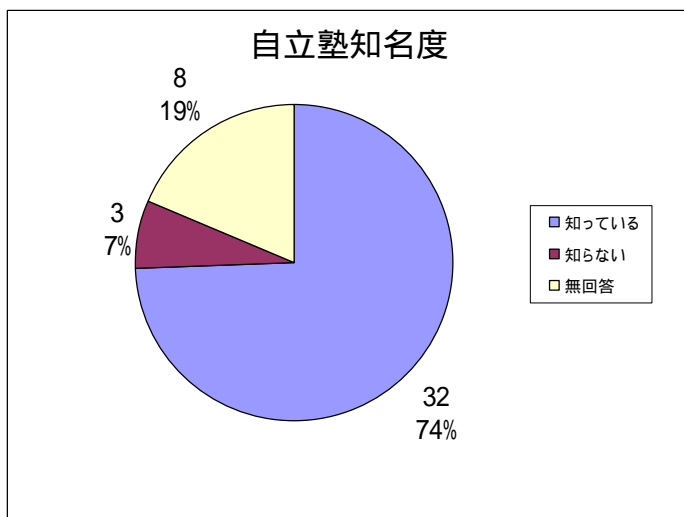
3 . 若者自立塾に関する質問

3 - 1) 若者自立塾を受託している団体に対する質問 (S = 3)

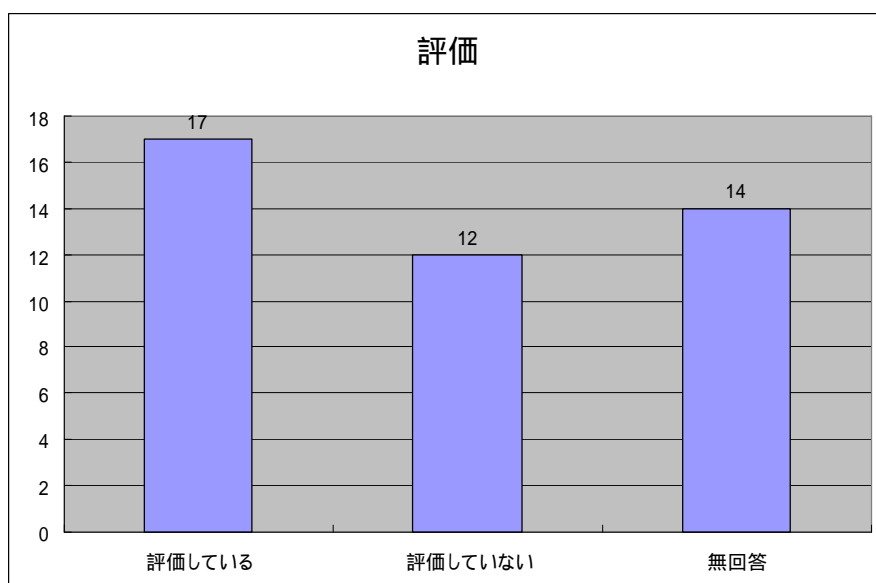
若者自立塾受託団体からは回答が非常に少なく、調査結果をまとめることができませんでした。詳しくは別紙「厚生労働省への公開質問状」をご覧ください。

3 - 2) 若者自立塾を受託していない団体に対する質問

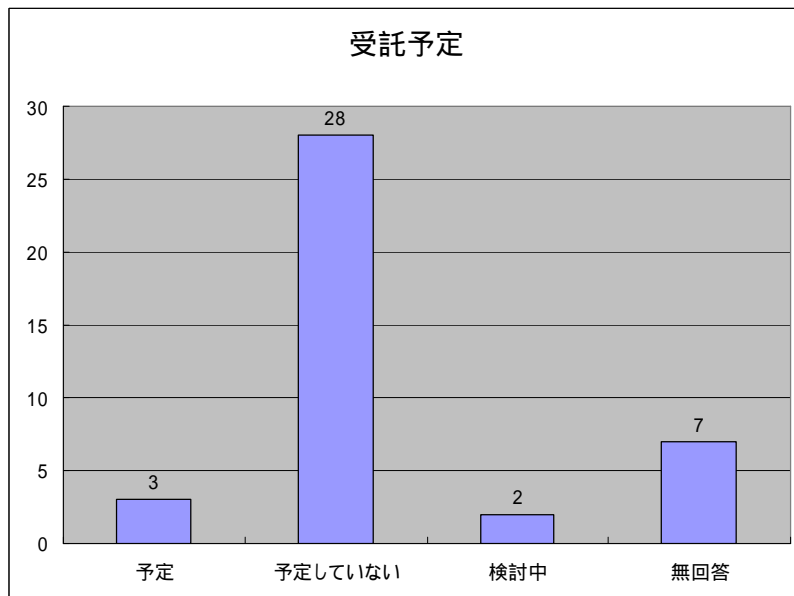
1 . 若者自立塾の知名度 (S = 4 3)



2 . 若者自立塾に対する評価 (S = 4 3)



3. 若者自立塾受託予定 (S=40)



4. 若者自立塾を受託しない理由

若者自立塾を「評価している」と答えた団体、「評価していない」と答えた団体に分け、そのうち「受託予定あり、あるいは、受託を検討」している団体と「受託予定なし」の団体に分け、それぞれ受託しない理由をまとめました。

評価している / 受託予定・受託を検討 … 5団体
受託しない理由
「人員不足」…1
「設備の不足」…0
「成果をあげられない」…0
受託しない理由についての記述なし

評価している / 受託予定なし … 12団体
受託しない理由
「人員不足」…6
「設備の不足」…5
「成果をあげられない」…2
ソーシャルワークに基づく訪問援助活動に特化しているため 方針やコンセプトが異なる
私共***では訪問サポートからグッドウィルやフルキャストなどの登録制の短期バイトにつなげたりしております。こちらの方が自立塾よりも現実的な社会を感じる事ができます。
現在の所、外出しない、外出しにくい、第3者と接触なしの方々が外出可能に、人と集えるという段階までの援助をしていますので。
ひきこもりは3ヶ月で就職するなんてとんでもない。

評価していない / 受託予定・受託を検討 …… 0 団体
評価していない / 受託予定なし …… 12 団体
受託しない理由
「人員不足」……2
「設備の不足」……3
「成果をあげられない」……6
ひきこもりは簡単に社会参加を考えてはいけない。3ヶ月で就労は無理。様々な要因があるので国の考えを正すべきだと思う。
神経症・発達障害・精神病等、何らかの心の病を抱えている人が多く、「3ヶ月で治った。元気になった。」ということはあり得ない。長期的な息の長い支援が必要。
目的がおかしい。社会適応を第一目標に持ってくると差別化やニート狩りになっていないか、引きこもりの人の焦りになっている現状もある。
3ヶ月で自立させるというのには、無理があります。又、資金を出せない家族も多く、通所してゆっくりというのが当団体のコンセプトです。
当スタジオは相談機関につき、ひきこもり青年に関わることが多く、自立塾のような支援より、自立塾のような支援を利用することができるようになるための支援を主眼としている。もっとも、自立塾の理念はもともと評価していない。
短期間に結果を出す問題ではない。本人だけの問題でもすまない。
「若者自立塾」の目指すものが人の自立とは考えない。「若者自立塾」的な考えや生き方があってもよいが、資格や狭義での「職」以外の広い世界を識るにはあまりにもインスタントに思う。
自立塾では本当の意味での支援ができないと考えているため。
神経症等の当該者まですそ野を広げる対応ともしっかりと期間を長くすることが必要。まずボランティアになってもらい、他者性や所作を身につけ、社会参加へ向かう。
根本的に賛同できない。

評価無回答 / 受託予定なし・受託予定無回答 …… 7 団体
受託しない理由
「人員不足」……2
「設備の不足」……2
「成果をあげられない」……1
若者自立塾受託制度について知らない
3ヶ月で終了するのではなく、働けない若者には引き続き継続してサポート及び働き出した若者にも安定するまで定期的なサポートをして行く体制が必要。
入寮前の心身のサポートに力を入れているため。いきなり入寮は難しいケースが多いため。
現在、通所型のワークスペースとして活動しています。将来この人たちにとって収入を得られる職場にしたいと思います。現在は小遣い程度の収入レベルです。
私たちの会は自助サークルであり、支援が目的ではありません。まず本人の今の在り方、意思を尊重し、若い人たちが他者とのふれあいの中で、何かを感じてもらえればいいし、そういう場を提供しています。
社会経済生産性本部ご担当の話では『この塾はひきこもりを対象と考えていない』由なので…。現在活動中の「若者自立塾」27 団体(施設)の状況等がこのご調査で明らかになることを期待。ご健闘を祈ります。

